

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・**実施結果**)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を踏まえ、生徒の個性や創造性を伸ばし、意欲や探究心を高める6年間を見通した教育課程編成に取り組み、検証する。 ・表現コミュニケーション力、科学・論理的思考力、社会実践力の育成を図る教育活動に更に組織的に取り組む。 	<p>(1) 評価のあり方についての理解を深めるとともに、具体的な評価規準を明確にすることで、指導と評価を一体化させた教育活動に各教科で取り組む。</p> <p>(2) 個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指し、一人一台の端末を有効に活用した組織的な授業改善に取り組む。</p>	<p>(1) 単元ごとに生徒の学習を評価することにより、生徒が自身の取組を振り返るとともに、教師からのフィードバックを受け、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>(2) 効果的・効率的に評価を行っていく観点から、ICTを適切に活用することで、生徒の様々な活動や状況を記録したり、共有したりする。</p>	<p>(1) 評価や振り返りによって、生徒の学習をより充実させることができたか。</p> <p>(2) ICTを適切に活用することができたか。</p>	<p>(1) 単元ごとに目標を設定することにより、生徒の理解に繋がった。</p> <p>(2) ICT活用については、多くの授業で活用できた。</p>	<p>(1) 「身に付けさせたい力」について、教科ごとに認識を共有する研修会を設定する。</p> <p>(2) 身に付けさせたい力、資質・能力は同じだが、各教科の見方・考え方で考えていくアプローチは様々でよいかと思う。</p> <p>・生徒たちが具体的に身につけたい力を意識していると感じた。自ら知りたいことがあり、調べて表現していた。</p>	<p>(1) 単元ごとに目標を設定することにより、生徒の理解に繋がった。</p> <p>(2) ICT活用については、多くの授業で活用できた。</p>	<p>(1) 「身に付けさせたい力」について、教科ごとに認識を共有する研修会を設定する。</p>	
2 生徒指導・ 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの特性や抱える課題を見極め、主体的な課題解決に向けて、組織的な生徒支援体制を構築する。 ・平塚中等生として誇りを持たせ、自覚を促す生活規律を確立し、「共に生きる社会」の実現も担う、次世代のリーダーを育成する。 	<p>(1) 各成長段階にある生徒が主体的に課題解決できるよう、スチューデント・メンター制度を最大限に活用し、予防的・積極的支援の更なる充実を図る。</p> <p>(2) 社会で活躍するために必要なリーダーシップとチームワークの醸成を図る。</p>	<p>(1) スチューデント・メンターとして、新入生へのサポートを再開し、新たな支援体制を生徒が主体的に構築することで、誇りと自己有用感を高められるよう支援していく。</p> <p>(2) 中高一貫の6年間の縦のつながりを活かしながら、仲間と課題解決する場面を多く設定し、自分の役割を認識することで、リーダーシップとチームワークの醸成を図り、自己肯定感を育成する。</p>	<p>(1) スチューデント・メンターとして、新入生へのサポートを再開し、新たな支援体制を生徒が主体的に構築することで、誇りと自己有用感を高められるよう支援していくことができたか。</p> <p>(2) 仲間と課題解決をする活動を通して、チームの中での自分の役割を認識し、自己肯定感を育てることができたか。また、6学年の縦のつながりを意識した活動と、3年生のリーダーシップの醸成を図ることができたか。</p>	<p>(1) 活動の再開に向けた内容の見直し、生徒の主体的な活動に向けた方針、計画についての話し合い活動を行わせることができた。個人の成長段階の課題について、必要に応じ地域の外部機関等と連携し、各自の課題に目を向けさせるサポートができた。また、定期的の下校指導に生徒が関わり、学校としての課題に目を向けさせることができた。</p> <p>(2) 行事の振り返りより、チームワークを大切にし、様々な場面で主体的に関わりながら課題を解決する様子が伺えた。また、自分の役割を認識して活動できた生徒が多く、自己肯定感の育成することができた。6学年の縦のつながりを大切に活動を開始することができた。また、3年生が、前期生のリーダーとして活躍できた。</p>	<p>(1) 改めてスチューデント・メンターの位置づけと具体的な業務を確認し、グループ間の連携を図りながら支援体制を確立していきたい。</p> <p>(2) 今後もチームで協働する場面を多く設定し、主体的に関わることで、表現コミュニケーション力と課題解決力を育成する。また、6学年の縦のつながりを意識した協働的な場面を設定し、仲間と課題解決をすることを通して自己肯定感と中等生としての誇りを育てたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式の時にスチューデント・メンターが参加し、携帯電話の使い方についてお芝居を交えて教えていて、こういったところで活躍していると知った。今後もこのような活動を続けて欲しい。 ・上級生が経験を踏まえて下級生に助言できることがある。生徒たちが本当のところ、どのように思っているのか、ぜひ聞いてみて欲しい。身につけた力を発揮してくれるのではないか。 	<p>(1) 活動の再開に向けた内容の見直し、生徒の主体的な活動に向けた方針、計画についての話し合い活動を行わせることができた。個人の成長段階の課題について、必要に応じ地域の外部機関等と連携し、各自の課題に目を向けさせるサポートができた。また、定期的の下校指導に生徒が関わり、学校としての課題に目を向けさせることができた。</p> <p>(2) 行事の振り返りより、チームワークを大切にし、様々な場面で主体的に関わりながら課題を解決する様子が伺えた。また、自分の役割を認識して活動できた生徒が多く、自己肯定感の育成することができた。</p>	<p>(1) スチューデント・メンターの位置づけと具体的な業務を確認し、グループ間の連携を図りながら支援体制を確立していく。</p> <p>(2) チームで協働する場面を多く設定し、主体的に関わることで、表現コミュニケーション力と課題解決力を育成する。また、6学年の縦のつながりを意識した協働的な場面を設定し、仲間と課題解決をすることを通して自己肯定感と中等生としての誇りを育てる。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	・生徒一人ひとりの進路実現に向けて、生徒が主体的・意欲的に取り組めるように多彩な体験活動を通して、支援する。	(1)一人一台の端末を有効活用し、大学や外部機関との連携を図りながら、効果的なキャリア教育実践プログラムのさらなる充実を図る。	(1)-a 生徒に情報提供しやすい環境の整備に努めるとともに、進路資料の作成をすすめる。また、大学ホームページ等の有効活用を指導しつつ、的確なタイミングで進路情報を生徒に発信する。 (1)-b 総合的な学習の時間、総合的な探究の時間の今後のあり方について検討を進める。外部機関連携先のリストを作成し、校内での情報共有、有効活用を図る。	(1)-a 生徒に情報提供しやすい環境の整備に努めるとともに、進路資料の作成をすすめることができたか。また、大学ホームページ等の有効活用を指導しつつ、的確なタイミングで進路情報を生徒に発信できたか。 (1)-b 総合的な学習の時間、総合的な探究の時間の今後のあり方について検討を進めることができたか。外部機関連携先のリストを作成することができたか。	(1)-a 『進路のしおり』『進路資料』を編集、作成し生徒、職員に配布した。各種ホームページの有効な利用のし方を含め、進路情報や学習の支援について、進路通信を年間を通じて定期的に発行した。 (1)-b 総合的な学習の時間、総合的な探究の時間の今後のあり方について検討を進め、次年度以降の実施形式の改善をした。また、多くの外部機関連との連携を構築することができた。同窓会と連携については引き続きの課題となった。	(1)-a 新教育課程による令和7年度入試への対応、具体的には入試制度、調査書等の作成について、職員間で認識の共有、生徒への適切に情報提供が重要な課題である。進路相談室や廊下スペースなどのいっそうの有効な活用を進めていきたい。 (1)-b 次年度の総合的な学習の時間の実施形式を変更したため、毎時間の授業計画をしっかりと準備し、授業担当者間での共有をしていく。また、さらに外部機関連との連携を活発にしていきたい。	・自分の高い志がどのように社会に貢献につながるか、キャリア形成を育てていくことはとても難しいと思う。 ・縦の6年間のスパイラルで学びが深まり、また、個人からグループへの広がりにつながっていると感じた。 ・生徒たちは、自分の好きなことになると、目の色が違い、生きいきとしている。こういったことが大切だと感じた。生徒たちは楽しんでるように見えた。もう少し、自由に試してみてもどうか。	(1)-a 『進路のしおり』『進路資料』を編集、作成し生徒、職員に配布した。各種ホームページの有効な利用のし方を含め、進路情報や学習の支援について、進路通信を年間を通じて定期的に発行した。 (1)-b 総合的な学習の時間、総合的な探究の時間の今後のあり方について検討を進め、次年度以降の実施形式の改善をし、多くの外部機関連との連携ができた。	(1)-b 外部機関との連携、および同窓会と連携については引き続きの課題として取り組んでいく。
4	地域と協働	・ホームページ等による積極的な情報発信とともに、地域との協働を進め、地域・保護者に信頼される学校づくりを推進する。	(1)ホームページ等を活用し、生徒の活動の様子を広く、多角的に即時性をもって保護者・地域へ発信する。 (2)生徒が自ら学びの場を地域に求め、地域社会に貢献するような活動を推進する。	(1)本校の生徒・保護者や本校に関心のある小学生とその保護者が、本校の教育活動の様子がわかり、理解を深められるよう、学校行事や生徒会活動での生徒の様子、部活動での大会結果を、ホームページを活用して適時配信していく。 (2)交流会、地域清掃について、計画段階から生徒による交流を進め、学校と地域のつながりを深めていく。	(1)学校行事や生徒会活動での生徒の様子、部活動の大会結果を、ホームページなどを利用して適時配信することができたか。 (2)交流会や清掃活動など、計画段階から生徒が関わり、内容を充実することができたか。	(1)ホームページの古い情報を削除し、今年度の行事や学習活動を発信することができた。学年により情報量に差があることが課題である。部活動の大会記録等の発信ができたが、部活によって情報量に差があることが課題である。翠星祭文化部門については、小学生の参加をホームページを用いて募ることができた。 (2)大原小学校やろう学校との交流会、地域清掃については、4年次や委員会が中心になり、計画段階から活動することができた。	(1)学年により情報量に差がないよう、各学年の担当者が責任を持って発信していくようにする。また、ページごとに管轄するグループを明確にし、適時情報を更新していく。また、部活動によって情報量に差がないよう、担当に情報提供を呼びかけていく。 (2)大原小学校やろう学校との交流では、生徒が計画段階から関わり活動することができ、充実した活動をする事ができた。	町内会としては、中学校、小学校と連携したいが、小学校との関わりが多く、お祭りなどの行事で関わっている。なかなか接点がないので、接点を作りたい。吹奏楽の生徒に出演してもらおうのがよいか。	(1)今年度の行事や学習活動を発信することができた。学年により情報量に差があることが課題である。部活動の大会記録等の発信ができたが、部活によって情報量に差があることが課題である。 (2)大原小学校やろう学校との交流会、地域清掃については、4年次や委員会が中心になり、計画段階から活動することができた。	(1)学年により情報量に差がないよう、各学年の担当者が責任を持って発信していくようにする。また、ページごとに管轄するグループを明確にし、適時情報を更新していく。また、部活動によって情報量に差がないよう、担当に情報提供を呼びかけていく。 (2)引き続き大原小学校やろう学校との交流の充実を図っていく。
5	学校管理 学校運営	・職員が主体的に学校運営に参画して「チーム学校」を構築し、事故不祥事防止を図る。また、教員のワークライフバランスを推進する。 ・生徒、職員の防災意識を引き続き醸成し、安全で安心な学校づくりを推進する。	(1)働き方改革をふまえ、業務の見直しを図るほか、職員のチームワークを高めることで事故不祥事防止に努める。 (2)災害時に迅速で適切な対応ができるように防災計画の工夫・改善を図る。	(1)ICTの活用により会議の合理化を図り、職員間の情報共有と業務の精選を一層推進し同僚性を高めることにより、事故不祥事防止に努めることができたか。 (2)防災マニュアルのスリム化、防災備品等の適正化、防災環境の整備等により、災害時に迅速で適切な対応ができるよう地域と協働しながら整備を進め、防災訓練等により、生徒・職員の防災意識や対応力の育成を図ることができたか。	(1)ICTの活用により会議の合理化を図り、職員間の情報共有と業務の精選を一層推進し同僚性を高めることにより、事故不祥事防止に努めることができた。 (2)防災マニュアルのスリム化、防災備品等の適正化、防災環境の整備等を進め、防災訓練については、実践的な内容に変更することにより生徒・職員の防災意識や対応力の育成を図ることができた。	(2)地域やPTAと協働しながら、災害時に迅速な対応ができるように防災環境の整備を進めていく。	学校は、事務方と一緒に先生方が進んでいくのは大変。毎年、新しいものを作るのはもったいないので、マニュアルを作って運用していくのがよいのではないかと。	(1)ICTの活用により会議の合理化を図り、職員間の情報共有と業務の精選を一層推進し同僚性を高めることにより、事故不祥事防止に努めることができた。 (2)防災マニュアルのスリム化、防災備品等の適正化、防災環境の整備等を進め、防災訓練については、実践的な内容に変更することにより生徒・職員の防災意識や対応力の育成を図ることができた。	(2)地域やPTAと協働しながら、災害時に迅速な対応ができるように防災環境の整備を進めていく。	

